

世界のヒーローが集う街をもっと盛り上げたい!

F1日本グランプリ、鈴鹿8耐、SUPER GT、そして今年から始まるSUZUKA 10HOURS……。世界が注目するビッグレースが目白押しの鈴鹿サーキット。レースに魅せられた人々が核となり、社会的な目標を掲げているのがNPO法人鈴鹿モータースポーツ友の会です。今もその活動に賛同する人が後を絶ちません。

国際コースで安全運転 鈴鹿ならではの取り組み

鈴鹿サーキット国際南コースに、エンジン音が響く……。なめらかにカーブを曲がり、気持ちよさそうに快走する車に目をやると、レース仕様のマシンに一般車が混じっていました。ライセンスさえ取得すれば、誰でも走れる鈴鹿サーキットではおなじみの光景ですが、この約1・2kmのショートコースは安全運転を学べる場でもあることを知っていますか。



市内小学校での出前授業の様子。子どもたちが楽しく学んでいる様子。NPO法人鈴鹿モータースポーツ友の会事務局のスタッフが講師を務めています。

「究極の安全運転」です」と切り出します。サーキット内は交差点がなく一方通行。仮にコースアウトしても砂地とスポンジなどの緩衝材を敷き詰めた広い安全地帯が用意されています。万が一のときに対応できるよう、つねに救急車が配備されており、国際的なレースともなれば、ドクターヘリが待機します。

特筆すべきは、ドライバーによる高いテクニック。時速300kmにも達するスピードを難なく制し、ブレーキも滑らかです。レーサーがもつとも重視するのは、走ることより止まること。きちんと停止できれば、事故につながりません。鈴鹿モータースポーツ友の会は、優れたスキルを持つプロのレーシングドライバーと一般ドライバーをつなぐ架け橋としても機能しています。

「私たちの活動の柱は、『社会貢献』と『青少年の健全な育成』。一輪、四輪の国際的なモータースポーツの聖地である鈴鹿市を、もっと盛り上げたいのです」。モータースポーツに魅せられたメンバーたちは、幅広い年齢層にその魅力を発信し続けます。



モータースポーツのノウハウがフィードバックされた交通安全教本。民間団体が教本を作るのは、モータースポーツ都市・鈴鹿ならではの取り組みです。

すべての世代にモータースポーツを広めたい



国際南コースで行なわれる鈴鹿市民サーキット走行会。短距離ながらカーブやストレートなど多彩なコース設定で、低速度でも走りがいがあります。



ショッピングモールや市役所など、さまざまな場所でマシンを展示しています。出前授業では、バイクにまたがった子どもたちはみんな笑顔に。



鈴鹿8耐の壮行会。チームにはライダーだけでなく、ピットワークの担当者も所属し、数多くのスタッフが支えています。



スムーズな加速と減速、コーナリングなどは、日々のドライブにも生かせる要素。走行しながら学び、キャリアの長いプロのレーサーたちが安全運転のアドバイスをしています。



「本物の世界を知る—レーシングコース同乗体験」は、過去5回開催。レースに合わせるため毎年開催とはいかないが、大人気。抽選で選ばれた地元小中学生が参加できます。

本物に触れる喜びを 子どもたちにも伝えたい

会の活動の中核となる鈴鹿市民サーキット走行会「〜クルマで遊ぼう〜」は、午前にスラローム(ジグザグ走行)やブレーキング、コーナリングなどをプロが指導し、先導走行に始まる午後はフリー走行を体験。もちろん、自家用車で参加でき、フルスロットル、フルブレーキどちらも体感できます。あえて最速スピードでのコントロールを体感し、普段とは違う次元で愛車の動きを学びます。

「高齢者を運転から遠ざけるような動きもありますが、むしろ積極的にマシンをコントロールし、皆さんの安全運転につながれたら」という思いから、50歳以上の高齢者をターゲットとした「脳内活性in鈴鹿サーキット」も開催しています。対象は大人だけではありません。2012年からは、鈴鹿市内の小中学生たちを対象に「本物の世界を知る—レーシングコース同乗体験」を開催。プロのドライバーが運転するマシンに同乗します。また、市とサーキット

の協働事業として鈴鹿8耐やF1の前には出前授業を通して、地元8耐チームやマクラレン、メルセデスなどF1チームとの交流を促進しています。「レーシングコース同乗体験では、『怖い』という小学生の声は皆無です。むしろ『運転がうまかった』『楽しかった』という反応が多かったですよ。ドライバーたちは非常に機敏がきく魅力的な人が多い。当意即妙な語り口は、子どもたちの心をつかんで放しません」と中野さんはほほ笑みながら。こうした活動は、子どもたちの夢を後押しするのも目的のひとつ。プロのドライバーや本物のマシンに触れる体験から、子どもたちが夢に向かうポジティブな気持ちを養っています。「毎年国際レースが行われる鈴鹿市では、世界のトップが集うワールドカップやオリンピックを毎年開催しているようなもの。ぜひ、レース観戦や私たちの活動への参加を通して本物に触れてほしいです」。国際都市・鈴鹿市に住まう人こそ、モータースポーツ界の夢の舞台を、一度は踏んでみては。そこしか感じえない思いを語れば、より鈴鹿市に住む誇りを感じられそうです。

NPO法人 鈴鹿モータースポーツ友の会とは?

2004年に採択された鈴鹿市の「モータースポーツ都市宣言」の趣旨に賛同し、翌年に発足されたのが「鈴鹿モータースポーツ市民の会」。2011年に鈴鹿モータースポーツ友の会に改称、2012年にNPO法人となり、全国へ門戸を開いた。鈴鹿市役所でのマシン展示、ケーブルテレビ『レーシングスピリット』の監修、市報での連載、鈴鹿8耐の壮行会開催など、多彩な活動を展開しています。

会員募集中!
NPO法人鈴鹿モータースポーツ友の会
TEL080-4537-2005(担当:中野)
http://suzuka-msa.jp/



左から小嶋生磨理事、前市長で「モータースポーツ都市宣言」を出した川岸光男理事長、現役レーサーの福山英朗副理事長、中野能成事務局長



鈴鹿市民サーキット走行会「〜クルマで遊ぼう〜」参加者の皆さん。参加を機に入会する人も多そう。現在、法人会員は市内企業を中心に20数社、一般会員は約100人が所属しています。